

# 表紙の“人” Mr.フィギュア

今月の一言

秘密が、バレンタインデー



2月といえばバレンタインデー。もうチョコをもらってドキドキすることもなく、義理チョコのお返しも結構気を使うし、でも全く貰えないのも寂しいし：などとお思いでは？そこで万が一、本命チョコをいただけようなドラマのような出来事が起きたらどうしましょう♥「会社の引き出しにこそりしまつて賞味期限が過ぎて食べれなかつたらどうしよう」などと、悩んで自宅に持ち帰り、妻から「へえ、こんなお洒落なチョコ、誰にももらったの？」などと上手くカマをかけられ、もごもごしてると鋭い妻の術中にはまり、更にそんな時はよそよそしい態度になりがちで、どんどん逃げ場がなくなり気がつけば白状していた：嗚呼悲劇の『バレンタインデー』。となりかねません。

同じ妻に見つかった話でも、こちらは歴史に残る高潔な実話。昨

年映画でも公開された『ニコラス・ウイントンと669人の子どもたち』。結婚して40年も経って妻が屋根裏で夫の過去の行いを物語る驚くべきものを見つけたのだ。と聞けば彼の若き頃の恋人か、浮気の写真か手紙かと勘ぐるのは小生含め多くの男性でしょうが、大ハズレ。実はそれは1938年ナチスの脅威が迫る中、イギリスのシンドラーと呼ばれたニコラスがユダヤの子供達を脱出させたキンドラー・トランスポート（子供救済輸送）の情報、1冊のスクラップブックなのだ。

彼は、なぜ今まで妻に言わなかつたのかと聞かれた時、「夫が妻に言わないことなどたくさんあるよ」と英国紳士らしくジョークを交えて答えたという。なかなか渋い！実は言わなかつた理由は、もつと多くの子供達を助けることが出来なかつた罪悪感からのよう

だ。秘密が公にされると世界中からあなたこそ私の父と名乗る人が200人を越え夫婦を驚かせた。ロンドンのリバプール・ストリート駅には助かった子供達の記念像があり、クマのパデントン物語の誕生にも影響を与えている。こんな愛と勇気の英雄的な話なら妻にバレても問題はないのである。小生も、「パパも偉かったのね」と賞賛される偉業をこつそり残そう、その場合ちゃんと思つてね。ここでチョコの話もチョコット！

**Mr.フィギュア** 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつも一緒。その正体は、実在するビジネスマン恒川憲一氏をモデルに作られたフィギュア。月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシャレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けている。

日本最初のチョコは風月堂総本家5代目1878年発売の「貯古齢糖」。バレンタインの歴史は1936年神戸モロゾフ製菓社から、メリーチョコ、森永、伊勢丹など諸説あるが、1968年ソニー創業者盛田昭夫氏がソニープラザでチョコを贈る流行をしかけたのは興味深い。男性がもらうのは日本と韓国くらいで、イギリスは逆チョコで男が贈るらしい。チョコといえはギブミーチョコプレートを想起する諸氏も多いと思



**恒川憲一氏** つねかわけんいち  
わ・けんいち クリエイター。株式会社シーエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フォット、一息』（セルバ出版）。

つかり家庭へスイーツな愛を注ぎ、シヨコラ辺の甘い誘惑にとろけて「バレン痛ンデー」にならぬよう、くれぐれもご用心。割れチョコ、我れに帰らずでは、洒落にもなりません（洒落ですが）。PS・Mr.フィギュアがなんとスマホの漫画になりました。アプリXOYをダウンロード！